

低金利環境が下支えになると 期待される先進国債券

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

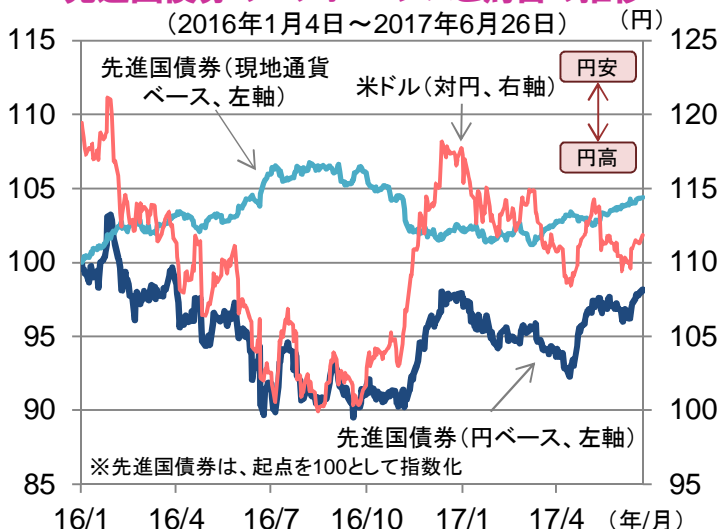
先進国債券(除く日本)は今年4月以降、為替変動を考慮しない現地通貨ベースのパフォーマンスに底堅い動きがみられるとともに、円安基調を背景に円ベースのパフォーマンスも持ち直しました。その背景に、主要先進国・地域において、景気回復が続いている一方で、物価上昇の動きは鈍く、低金利政策が続いていることがあります。

主要先進国・地域の物価・金融政策をみると、米国では雇用市場などの回復を背景に、FRB(米連邦準備制度理事会)が利上げを開始した一方で、コア・インフレ率は足元で鈍化傾向となっています。FRBは年内に保有資産縮小を開始する方針を示しているものの、縮小ペースはゆっくりしたものになるとみられるほか、最近の軟調な米経済指標を受けて、利上げペースは従来予想よりも緩やかになるとの見方が広がっています。欧州では景気回復がみられ、6月のECB(欧州中央銀行)理事会では景気認識が引き上げられました。ただし、ドラギECB総裁は、鈍い物価上昇を踏まえると、金融緩和策は当面維持されるべきとの考えを示しており、低金利環境はしばらく続くとみられます。英国は、英ポンド安などを背景に、コア・インフレ率の上昇がみられるものの、今後のEU離脱交渉に不透明感があることなどから、BOE(イングランド銀行)は利上げに慎重なスタンスを示しています。豪州は、輸出増加などから、足元の景気は底堅く推移していますが、コア・インフレ率は依然として低い水準となっており、利上げの緊急性が高まっている状況ではありません。

世界景気の回復基調を背景に、主要先進国・地域で金融緩和の見直し機運が高まっているものの、米国を除いて、実際の利上げにはしばらく時間がかかるとみられます。米国については、足元の景気鈍化は一時的との見方がありますが、利上げペースは今後の経済指標次第と考えられます。こうしたことなどから、現地通貨ベースの先進国債券のパフォーマンスは、低金利環境を背景に引き続き堅調な推移が期待されます。なお、今後、主要先進国・地域の景気回復や物価の上昇が鮮明となり金利上昇が起きたとしても、内外金利差拡大から円安基調(外貨は上昇)になるとみられ、円ベースでは底堅い推移が期待されます。

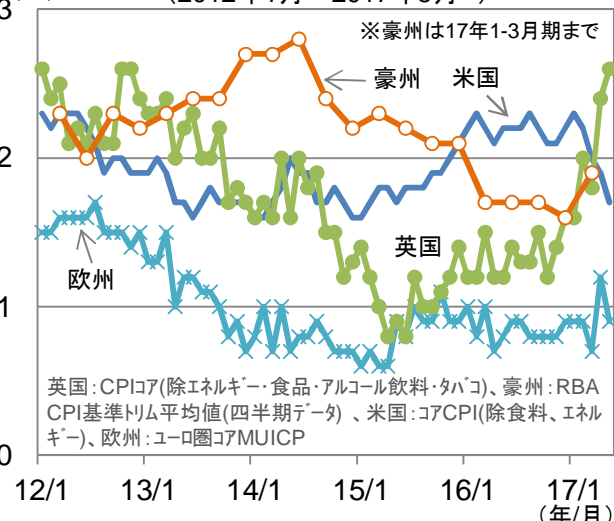
先進国債券のパフォーマンスと為替の推移

(2016年1月4日~2017年6月26日) (円)



主要先進国・地域のコア・インフレ率の推移

(2012年1月~2017年5月※)



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。